

■片桐石州(貞昌) 大名、茶人。大和小泉初代藩主。武家茶道界をリードして名園慈光院を開き、石州流の開祖になった。

かたぎりせきしゅう

徳川家康隠居1605= 摂津国茨木で、豊臣家遺臣片桐兄弟且元の弟貞隆の長男に生まれる。母は今井宗薫の娘。

家康駿府退隠1607= 2歳:

大坂冬の陣・1614= 9歳: この年の大坂冬の陣で、兄且元とともに徳川方についた父が、
大坂夏の陣・1615=10歳: 大坂夏の陣後、大和国小泉の大名となる。(且元は同国竜田の大名になるが、直後に死去)
徳川家康没・1616=11歳:
:
吉原遊郭始・1617=12歳: 将軍秀忠にお目見え。

徳川家光将軍1623=18歳: この年、父が陣屋を大和小泉に移して、藩の整備を始めるが、
伊予断交・1624=19歳: 従五位下石見守に叙任され、石州と呼ばれるようになってまもなく、

紫衣勅許無効1627=22歳: 父が死去し、大和小泉1万6000石余を継いで、実質的に初代藩主となる。

徳川秀忠没・1632=27歳: 茶の師匠桑山左近(千道安門下)が死去。
鎖国令Ⅰ・1633=28歳: 炎上した京都知恩院再建の普請奉行となり、8年にわたって京都に滞在。
鎖国令Ⅱ・1634=29歳: 一時小泉に帰り、記録に残る初の茶会を催す。
この間、小堀遠州や千宗旦、松花堂昭乗ら寛永期を代表する茶人たちに交わって研鑽、当時盛んであった遠州の茶とは異なる侘び茶への傾斜を強める。
島原の乱終・1638=33歳: 同時に大徳寺芳春院の玉室に参禅し、玉室から[高林庵]の額を受ける。大和郡山城主の茶会に招かれる。

寛永飢饉始・1640=35歳: 知恩院再建が終り、小泉で茶会。
家光鎖国完成1641=36歳: 小堀遠州の伏見屋敷ほか多くの茶会に招かれた後、
初の高札・1642=37歳: 西国中国辺郡奉行を経て、東西郡奉行に転じ、
寛永飢饉終・1643=38歳: 帰藩。
明滅亡・1644=39歳: *江戸で盛んに茶会するうち、将軍家光のお供で水戸徳川頼房邸で点茶して、その名が高まる。
・1645=40歳: 遠州・関東の堤防巡視。
以後、江戸と小泉を往来しながら、それぞれで茶会、
・1647=42歳: 江戸大地震で、相模国馬入川修復のため巡視。大徳寺高林庵が落成。
市中諸法度・1648=43歳: 柳営御物調査。
慶安御触書・1649=44歳: この年、玉室法嗣で師でもある玉舟が大徳寺の住持となる。江戸大地震。
御蔭参流行・1650=45歳: 畿内・江州水害地を巡視し、報告。江戸大地震
徳川家光没・1651=46歳: 長男が新将軍家綱にお目見え。
この頃から、江戸で多数の茶会を開くようになる。
野郎歌舞伎始1653=48歳: 富士川・天竜川堤防破損で巡視。

・1655=50歳: 三男が将軍にお目見え。朝鮮通信使の護送。
この間、桑山左近から伝授された百か条に二百か条を加え、「石州三百ヶ条」を書く。

明暦の大火・1657=52歳:

朱舜水帰化・1659=54歳:
・1660=55歳: 茶論「一畳半の事」を書く。
清帝国始・1661=56歳: 茶論「侘びの文」を書く。
松平信綱没・1662=57歳: この年、玉舟の法嗣春澤が大徳寺の住持となる。
殉死の禁止・1663=58歳: *父の菩提のため、小泉に慈光院(書院と庭園の傑作で重要文化財)を開創、

諸宗寺院法度1665=60歳: *ついに船越水景と共に将軍家綱に献茶を行うに至り、将軍家茶道師範と俗称され、小堀遠州のあとを受け
て大名茶道を領導したため、石州の茶は全国の藩に広まって行く。

酒井忠清大老1666=61歳: 仙洞御所の庭園を完成。
足利学校再建1668=63歳: 郡奉行を致仕し、遺言状を書くが、相変わらず藩主のままで、隠居せず、

・1671=66歳: 慈光院の茶室(二畳台目)が成り、
東西海運確立1672=67歳: 徳川光圀に献茶し、江戸屋敷で集中的に茶会を催したが、
三井越後屋・1673=68歳: 没した。
遺構として、大和当麻寺の中之坊茶室(四畳半と二畳中板)、小泉慈光院の茶室(二畳台目)など。